

地域問題特論ⅩⅢ

担当者 金 早雪

開講時期 後期

単 位 1

●講義の概要

20世紀以降における日本をとりまく国際労働移動問題から、アジア域内の政治・経済・社会事情を考察する。労働移動の最大要因は経済力（賃金）の格差にあるが、送出側（プッシュ）と受け入れ側（プル）のそれぞれにおいて、移動をめぐる社会的課題や政治的判断などが錯綜しあうことが常である。1990年代以降の日本は、日系ブラジル人などへの「定住ビザ」と技能実習生を皮切りに、EPA（経済連携協定）による看護師・介護福祉士など高度人材の受け入れなど、徐々にではあるが選別的受け入れを広げてきている。日本の労働力受け入れ、ひいては国際労働移動のあり方を考えたい。

●講義の到達目標

- ①労働移動・移民の実態からアジア近代史を理解すること。
- ②現代日本における外国人労働受け入れの実態と課題を理解すること。
- ③移民者との共生（多文化社会）をめぐる諸課題を理解すること。

●講義計画

- 第1回 近代日本の国策移民送出：東拓移民、笠戸丸・ブラジル移民、旧満州移民
- 第2回 帝国日本の労働移動：植民地朝鮮から「内地」・大阪へ
- 第3回 講和条約・日韓条約が生んだ在日コリアンとその処遇
- 第4回・第5回 大阪コリアタウン・フィールドワーク
- 第6回 円高下「じゃばゆきさん」による労働開国のはじまり
- 第7回 韓国の国際労働移動（送出・受入）政策
- 第8回 労働移民による多文化社会の現状と課題

●成績評価基準と方法

- 講義の理解度と貢献度（発表・発言など） 50%
- 期末レポート 50%

●テキスト又は参考文献

参考文献

宮島喬『「移民国家」としての日本』岩波新書、2022年

●受講上の留意点

日時は相談して進めます。

大阪コリアタウン歴史資料館（2023年4月開館予定）などでのフィールド学習を交える予定。